

恵みと真理のニュース



2015 年 6 月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

神様は旦那に神癒の恵みを与え、 私を通して御言葉の中で主の権能と愛を体験させます

神様は私の眼を開いて暗闇から光で、サタンの力から神様の所に戻ってくれるようにしました。罪が赦され清く神様の民になさしてくださいました。世の中で生きる苦しい人生から解放され心が自由で平安になり楽しく生きるよう導いてくださいました。私の魂を救ってくださりこの満足と幸せを味わう人生で変えてくださった神様に感謝を捧げます。

私は結婚をしてソウルに来て旦那がする自営業を手伝いました。私達の夫婦が熱心に仕事をする中で事業がうまくなくなりました。そして、事業がうまくなくなっている時にアメリカに送ってくれと友達の言葉に聞いて事業を辞めました。事業を整理して集めたお金を友達に預け、待っているときに詐欺にあったことを分かりました。アメリカに行行って新しい事業をすることを考えて心がふわついている旦那には青天の兵艦のような消息でした。突然、家族が住むところがなくなりました。

家庭が経済的に回復にくい打撃を受けました。それだけでなく旦那は心に傷を受けて病弱になりました。挫折と怒りのストレスで高血圧になりました。その時から旦那の代わりに私が生計を担えました。1987年春に起きた事です。旦那は高血圧と糖尿病によって合併症も患いました。様々な病院を通い治療を受けて体によいと聴いたら薬を飲みましたが全然効果もなかったです。そうするうちにヨンサン鉄道病院で先端医療機器があると聞いてそこで検査をうけました。そして、結局心臓と副腎の間に悪性腫瘍があると診断を受けました。病院では旦那が心臓が弱くて手術もできないと退院するとしました。珍しい病気で治療が出来ないとしました。そして せいぜい2年しか生きるしかないと言いました。そしてその話を聞いてその場で座り込んでしまった。足が震えて前が見えま



【信仰コラム】

“あなたの目は、からだのあかりである。あなたの目が澄んでおれば、全身も明るい、目がわるければ、からだも暗い。” (ルカによる福音書, 11:34)

‘目は心の窓’という言葉があります。 目を見ればその人の心の状態、心得が分かるからです。 目が美しく見えるようにするために目の形を直す人々がいます。しかしそれよりもっと重要で切実なのがあります。事物をどんな目で見ようかと言うのです。 事物を見る観点の差は生の成功と失敗に係って、幸せと不幸に係ります。

第一に、愛の目を持ってみななければなりません。

新約聖書の福音書を見ればイエス様が愛の目で人々を見て恵みを施す姿を見るようになります。 ある日はイエス様が休むのを願って船に乗ってベッセタの荒野にいらっしゃってからその所に先に来て陣を張っている人々を見ました。 イエス様は彼らを愛の目で見て可愛想に思って神様の国のお言葉を伝えて彼らの中に病気を治して下さいました。 そして奇蹟を行って皆が腹一杯食べさせました。 他人を律法的な目、あわれみの目で見れば叱責するようになります。 まるで悔い改めて帰って来た弟を迎えて太っている子牛を取った父に不満を噴き出した長男のように行動するようになります。 しかし父は愛の目に帰って来た息子

せんでした。

イエス様を信じる前は占い師のところに行って旦那の将来のことを聞いたりしました。ある日は占い師は話だけを聞いて旦那のため見ものする途中占い師が倒れてしまつて私達に早く家に帰りなさいと言われました。経済的に苦しい中でもお金も借りて占い師を探しに行ったがその占い師の行動が理解できなくて悔しかったです。何の意味もないとこれから絶対占い師には行かないと決心しました。後でイエス様を信じて信仰生活を始めてから神様は私達を子供と選んだと思いました。

もう仕方なく旦那を退院させました。そして旦那に教会に通うまいと勧めました。旦那は反対しました。“私はイエス様を信じて教会を通うと私達が知らない何かがあるだろうと、イエス様を信じて病気が治された人々がいるし、病気は治されなくても教会に通う病弱な人や障害を持っている人を見ると普通の人と違っていつも明るくて平安な姿で生きているのではないが”と旦那を説得しました。これから2年しか生きられないから私をついて教会を通い始めました。そのように私達は恵みと真理教会に行き決信して聖徒になりました。始めて教会に行つて礼拝を捧げたその日から私達は当会長牧師の説教に大きい恵みと感動を受けました。この世では短く生き、救われると永遠な天濃くて福を享受しながら生きるという御言葉が心深く響きました。一方、神様は旦那の病も治して下さる信仰と希望が出来ました。家族に対する責任感も足りなくて重病にも患っている旦那を憎み恨みました。その事を悔い改め祈りをしました。そして主の手に全ての心配を預けました。そして”今日は牧師が私達にどんな説教をして下さるのか”“説教を聞く楽しみと祈りに答えて下さる神様に切に祈りをするため真面目に教会に来て礼拝を捧げました。”

その後からまもなく水曜日でした。その日も普通のように教

すべての対象をどんな目で見ようか?

を見たので悔い改めて帰って来た息子を赦しと彼に最善の物を与えようと思いました。

愛の体験が私たちに愛の目を持たせてくれます。 イエス様の弟子の中にヤコボとヨハネは性急な性格の持ち律法的で利己心の目で事物を見る性向を持っていました。 しかしこれらはイエス様の死ぬことと復活して天に昇り以後に大きく変化されました。 ヤコボは使徒の中に初の殉教者になったし、ヨハネが記録した福音書と書信に一際愛と言う用語がたくさん記録されています。 これは彼らがイエス様の中に現われた神様の愛を体験した結果です。

二番目で、公義の目を持ってみななければなりません。

公義がない愛と言うのは原則がない愛です。 これは放縦で進むようにする原因になることができます。神様の愛と公義は均等でかたよることがないです。イエス様は愛の目で人生を見てその能力と恵みを施したが、また一方公義の目で人生を見て叱って怒って涙を流しました。 神様の聖殿をよごす者に対してきっぱりと対して虚偽とけれんで行う書記官とパリサイ人を向けても峻厳に叱咤しました。 私たちは偏見と利己心によって判断をあやまちとか人間の肉情と私慾によって悪しくて不意したことをかばう事があってはいけません。 私たちが神様の面前意識をもて神様のお言葉をすべての判断の原則にするようになる時に公義の目、公義の眼目、公義の観点を持つことになって神様がそんな私たちの側に止まります。

三番目で、信仰の目で見なければなりません。

神様はアブラハムに信仰の目で見える方法を教育しました。 彼に盛んな子孫をくださると約束した後 ある日彼を帳幕の外に導き出して天の星を見る時に神様の口約束を憶えて信仰の目で見なさいと言いました。 ガナアン地を探ったイスラエル斥候の中の十人の斥候は科学的な目だけ持ったがヨシュアとガレブは信仰の目を持ちました。 これらも科学的な目としてすべてのものを見たがしかしその次の神様のお言葉を通じて信仰の目で見ました。 私たちが信仰の目を持つとすればすべてのものを神様の口約束を通じて見なければなりません。 それでは患難の中にも幸せを見るようになって、苦難の中ある光栄を見るようになって、問題の中にある解答を見られるようになります。 そして患難の中にも楽しがって凡事に感謝する生活をするようになります。

愛の目、公義の目、信仰の目で見るとことは別に言って聖書的な観点を持つ意味です。 これは神様の側に止まって見て神様のお言葉を通じて見るのです。 こんな点で観点の差は救いと滅亡、永生と永滅、勝利と敗北、成功と失敗、幸せと不幸に関わります。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

エデンの園は傷つかせることや害するのがない樂園でした。危険がなくて生存を脅威する事がなかったです。神様の命令を逆って罪を犯したアダムとエバがエデンで逐出された以後では事情が変わりました。人は生まれる瞬間から危険に露出して生存が脅威を受け始めるようになりました。そして人は生まれ出てから一生を養育と保護を受けることができれば生存することができません。人々は生存と生活の安全のために共同体を形成して法と制度を作ります。治安と国防を担当する組織を置きます。各種の災難を備える組織と器具も設置します。しかし人が備えて作ったことでは十分ではないです。人間の力と知恵では対処することができないし解決することができない状況と問題がたくさんあります。このような人生に聖書は恵まれて嬉しい消息を提供しています。神様の助けを着る道に対する消息です。今日の本文がそういう朗報です。

本文の詩篇 91 篇 1 節には “いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人” しました。

いと高きと言うのは “一番高い” “大変尊い” という意味で神様を示して “いと高き者” と呼びます。神様は万有よりすぐれて卓越な方であるということを強調する時に使う言葉です。“隠れ場” と言うのは聖幕の地聖所を指称する時に使われました。聖殿の一番内側にある地聖所は一年に一回大祭司長外には入って行くことができない所です。隠密であるということは神秘的さと秘密を意味します。いと高き者の隠れ場に対して新約聖書のコロサイ人への手紙に啓示されたお言葉をよく見ます。1 章 26 節と 27 節に “その言の奥義は、代々にわたってこの世から隠されていたが、今や神の聖徒たちに明らかにされたのである。神は彼らに、異邦人の受くべきこの奥義が、いかに栄光に富んだものであるかを、知らせようとされたのである。この奥義は、あなたがたのうちにいますキリストであり、栄光の望みである” と記録されました。2 章 2 節には “それは彼らが、心を励まされ、愛によって結び合わされ、豊かな理解力を十分に与えられ、神の奥義なるキリストを知るに至るためである。 “いと高き者の隠れ場” がイエスキリストというのを明確に知らせてくれます。

“いと高き者の隠れ場に住む者” とはイエスキリストを信じて頼ってまたイエスキリストを神様で仕える人を意味します。いと高き者の隠れ場に住む者は “全能者の陰にやどる人であろう” としました。陰は保護と安息を意味して一番偉大な保護と安息を与える陰は全能者の陰です。全能者の陰は最上の安全を保障する居所であり、永遠な安全を保障する居所です。いと高き者の隠れ場だと指称されたイエスキリストにあって住む者は全能な者の保護と助けを受けて最上の安全を保障受けるようになります。

いと高き者のもとにある隠れ場に住む人

本文の 2 節には “主に言うであろう、「わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神」” と記録されました。

いと高き者の隠れ場に住む聖徒は神様と自分の多様な関係が分かってこれを口で自認めなければなりません。詩編の記者は本文でいと高きなさった神様と自分の関係を言及しました。第一、“彼はわが避け所である” と言いました。“万歳盤石開かれたら” という讃歌を作詞したオゴストストプレデーは神様は避け所になるという意味を深く悟る体験をしました。1776 年アメリカ独立戦争の時でした。荒野に一人でいる時急に迫った台風が天地を荒しました。彼は飛ばないために大きい岩これから行きました。岩の前に行って見たら彼が身を入れるだけ割れていました。入り込んでそこで台風が通るのをお待ちになる間に彼は神様の審判が思い出しました。矛に突かれて血をこぼしたイエスキリストこそ審判受ける罪人が隠れることができる万歳盤石であることを思いました。その経験を通じて彼は “万歳盤石開かれたら私が入って行きます。” という讃歌の詩を書きました。神様は彼に避ける者のために避け所になります。

第二、“彼は私の城である” と言いました。難攻不落の城が陥落された事例が無数に多いです。しかし神様は完全な城です。イエスキリストの中にあればサタンの手がつける事ができません。地獄の権勢が及ぶことができません。第三、“彼の依頼する神様である” と言いました。神様と自分の関係を確信にあふれる音声で言えば神様が喜んで幸せを加えます。神様は自分を依頼する人をつかんで抱きます。

本文の 3 節から 13 節までには次のように記録されました。

“主はあなたをかりゅうどのわなと、恐ろしい疫病から助け出されるからである。主はその羽をもって、あなたをおおわれる。あなたはその翼の下に避け所を得るであろう。そのまことは大盾、また小盾である。あなたは夜の恐ろしい物をも、昼に飛んでくる矢をも恐れることはない。また暗やみに歩きまわる疫病をも、真昼に荒す滅びをも恐れることはない。たとい千人はあなたのかたわらに倒れ、万人はあなたの右に倒れても、その災はあなたに近づくことはない。あなたはただ、その目をもって見、悪しき者の報いを見るだけである。あなたは主を避け所とし、いと高き者をすまいとしたので、災はあなたに臨まず、悩みはあなたの天幕に近づくことはない。これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であなたを守らせられるからである。彼らはその手で、あなたをささえ、石に足を打ちつけることのないようにする。あなたはししと、まむしとを踏み、若いししと、へびとを足の下に踏みにじるであろう。

いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神だと告白する者には特別な保護と安全が保障されました。神様は私たちが経験する危険でさまざまな方法で保護して安全になさいます。第一、危険をあらかじめ避けるように手伝ってくれます。使徒パウロがエルサレムを訪問した時に彼を殺そうと思う人々に囲まれました。

群衆の騒擾の事態を報告を受けたローマ軍隊の千卒長がこれを押えようと軍隊を従えて来てパウロを強制で兵営の中に連れて行きました。

パウロを害しようとする者はパウロが法廷に出席するために兵営外に出れば殺そうと譏議してこの事実をユダヤ宗教リーダーに知らせました。ところでその情報を手に入れたパウロの甥が兵営に入ってパウロと千卒長に知らせました。すると千卒長はおおよそ 470 人の軍人で護送部隊を作ってパウロをローマ総督があるがイサリヤに無事に送りました。パウロの甥がそのように重大な情報を手に入れて知らせた事と千卒長が護送部隊を作ってパウロを護送させたことは危険を避けるように助ける神様の摂理でよったのです。

第二、危ない事にあっても害を受けないように保護します。イスラエル子孫が荒野を通る時神様が昼には雲の柱で、夜には火の柱で彼らを保護して安全にさせました。火のへびや、さそりがいてイスラエル子孫をかむことができないようにしたし盤石で水が出させました。神様が彼らが当面した危ない都合をとり除いてくれなかったが害を受けないように摂理して保護してくださいました。

第三、危険と苦痛と損失が発展のための跳躍台になるように保護して手伝ってくれます。ヨセフは彼をそねむ兄たちによってくぼみに投げられてからエジプトに売られました。主人の妻に謀陥を受けて重罪人を閉じこめる監獄に入るようになりました。しかしこんな過程を通じてエジプト王の夢を解釈する機会を得るようになったしその結果でエジプトの総理になりました。そして大飢饉の時に彼の父と兄弟の家族をエジプトで招待して住む道を開いてくれました。神様は時に従って私たちが危険や苦痛や損失を経験するように置くが結果的にはより良い位置で使命を遂行するように摂理なさって手伝ってくれます。

第四、神様の助けを着てサタンの権勢も充分に制御して勝たせます。獅子と蛇はサタンを示します。ペテロの第一の手紙、5 章 8 節に “身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている。” (ペテロの第一の手紙、5:8) しました。ヨハネの黙示録、12 章 9 節には “この巨大な龍、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれ、全世界を惑わす年を経たへびは、地に投げ落され、その使たちも、もろともに投げ落された。” としました。私たちがこの一つ事実を肝に銘じなければなりません。聖徒はどんな場合にも究極的には失ったことがないという事実です。私たちの魂が保護を受けて安全を得るようになるので敗北や破滅と言うのはないです。だから最上の安全は危険のない所ではなくいと高き者の隠れ場、すなわちイエスキリストの中にあります。

愛する皆さんは将来に復活されて変化された身を着る群れの中で主神様を向けて “いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人は 主に言うであろう、「わが避け所、わが城、わが信頼しまつるわが神」” という感謝の讃歌を呼ぶように願います。